現代に生きる与次右衛門

正徳元年（一七七一年）佐瀬与次右衛門は、八十二歳まで長生きし、かがやかしい足あとを残して、その生涯を終えました。

与次右衛門の教えをうけて、また『会津農書』に教えられて、幕内の農業はその後もさかんになっていきました。野菜は、会津だけでなく、全国の各地に運ばれていきました。野菜のたねや、苗の産地としても、有名になりました。いろいろな野菜を、組み合わせた農業の方法は、ずっと続けられました。

与次右衛門が苦心したナス作りは、そのままのやり方で、ごく最近まで続けられていました。毎年五月の終わりごろには、ナス苗を買う人が、遠くから幕内にやってきたものでした。